

ふれあひ会校「見て、聞いて、ふれて」

～こしがやを知るセミナー～

日光道中

『越ヶ谷宿』あれ、これ

日 時 平成14年7月25日(木)
午後1時30分～3時30分

会 場 越ヶ谷公民館・大会議室
(越谷市中央市民会館3階)

主 催 こしがや地域ネットワーク13
(略称 ケネット13)
越ヶ谷公民館

ふれあい合校「見て、聞いて、ふれて」
～こしがやを知るセミナー～

日光道中『越ヶ谷宿』あれ、これ

時代の流れと共に大きな変貌を遂げている越谷市各地区にはそれぞれ地域の特性があります。

そこで「ふれあい合校」をとおして各地域の伝統行事や歴史・地理的特徴を知ることにより地域を越えた連携・交流を図り越谷市への関心と愛着を持つことを目的とします。

今回は、“日光道中『越ヶ谷宿』あれ、これ”をテーマに「ふれあい合校」を開催します。

◎主 催 こしがや地域ネットワーク13（略称：ケネット13）

越ヶ谷公民館

◎日 程 平成14年7月25日（木）午後1時30分～午後3時30分

◎会 場 越ヶ谷公民館 大会議室（越谷市中央市民会館3階）

◎対 象 どなたでも

◎募集人員 60名

◎参加費 無料

◎内 容 江戸・明治・現代の絵図等をもとに『越ヶ谷宿』の変遷を知る。

◎講 師 高橋正澄氏（越谷市文化財調査委員）

◎申込み 7月19日（金）午前9時から公民館にて受付（電話可・先着順）。

◎問合せ 越ヶ谷公民館 ☎965-3093



平林於田子子田子田子

月先道中

越谷宿阿礼尔

平林於田子

越ヶ谷宿 あれ。これ

江戸時代初期の奥州道中

千住 ~ 大原通り ~ 八条 - 柿ノ木 - 別府 - 四条 -
見田方町 - 西方 ~ 瓦曾根 - 越ヶ谷観音横町 - 越ヶ谷中町

会田出羽と越ヶ谷

- ・会田出羽、天正以前、倉州海野一族、会田より郎党6家と共に越ヶ谷村（現御殿町）に土着。
- ・当時、越ヶ谷村、居付百姓 17軒。
- ・出羽、陣家敷地を家康に提供 増林お茶屋御殿が越ヶ谷宿に移る。（越ヶ谷御殿）
- ・出羽、地域開発 越ヶ谷宿造成に貢献、家康より1町歩（実質 約3町4反余）下賜、家康 秀忠 家光の厚遇をうける。

越ヶ谷宿の造成

- ・慶長7（1602）中山道 奥州道中に伝馬制度しかれる。
- ・越ヶ谷宿 四丁野、花田、瓦曾根など、周辺村々から移住。
- ・大沢宿、慶長年中、鷺後、高畑など周辺村々より移住。
- ・越ヶ谷宿、当初は本町のみ。
- ・寛永7（1630）草加宿成立後、新道沿いに新町造成。
- ・延宝2（1674）以降、越ヶ谷宿、大沢宿が合宿、越ヶ谷宿となる。
(町) (町)
- ・元禄8（1695）検地前、会田出羽の所持地が中町となる。
(越ヶ谷町、本町、中町、新町、大沢町、上町、中町、下町に区画)
- ・町並み、間口のせまく、奥行の長い屋敷が街道の両側に連なる。

間口6間（約11m）以上の家 … 伝馬屋敷（継立馬負担）
（越ヶ谷町 120軒半 大沢町 73軒）

間口6間（約11m）以下の家 … 歩行屋敷（継立人足負担）
（越ヶ谷町 21軒 大沢町 5軒）

伝馬、歩行百姓（本百姓） … 地子（宅地税）免除、寄合参加などの特権を有す

宿場役人とその業務

- ・問屋（名主兼務） ----- 伝馬業務の総括責任者
- ・年寄 ----- 問屋の補佐
- ・帳付 ----- 問屋関係事務の処理
- ・人馬差 ----- 必要人馬の差配
- ・定使 ----- 連絡、文書の配送等

問屋場

- ・宿役人や問屋下役が常勤、人馬の供給、休けい、宿泊など宿駅事務を管理する所。
- ・当初、各名主宅にあったが、宝永4（1707）問屋場、一定場所に定まる。

越ヶ谷町	…	中町、元会田出羽大屋敷のうち、間口6間 奥行15間（約27m）の地
大沢町	…	名主 江沢大屋敷 間口6間 奥行15間の地

本陣

- ・当初、会田出羽の一族、本町会田八右衛門。
- ・安永3（1774）会田家没落のため、大沢町、照光院が臨時に本陣をつとめる。
- ・安永9（1780）大沢町脇本陣、大松屋福井権右衛門が本陣をつとめる。
- ・天明3（1783）大沢町大火のため、仮本陣照光院がつとめる。

旅旅籠

- ・越ヶ谷宿は大沢町が宿場、越ヶ谷町が商家
- ・天保14（1843）旅籠屋 52軒

定飛脚宿、奥筋式家定宿、諸国町人商人宿、在々百姓宿など

- ・文化年中（1804～1818）飯盛旅籠 22軒

参勤交代

- ・本陣、福井家利用大名、仙台伊達家はじめ38家、その他公家、日光門跡、幕府要人
- ・弘化5（1848）伊達家宿泊時、家来衆 坊主足軽衆 小人衆の下宿先 93軒（商家も含む）
- ・弘化5年、本陣利用の公家、門跡、大名 要人 31家

助郷

- ・交通量が増え、御用人馬では足りない場合、近在の村々から人馬を徴用する。指定された村を助郷村
- ・御用人馬、明暦3（1657）25人25足 享保年中（1716～1736）50人50足
- ・越ヶ谷宿、四丁野、花田、西新井、登戸など 20ヶ村

馬賃人馬	…	將軍発行の御朱印伝馬 老中、京都所司代、勘定奉行等発行の御証文伝馬
公用人馬	…	大名など幕府が定めた公定賃金による伝馬
相対人馬	…	問屋場では取り扱わず、相対による伝馬

- ・文政4（1821）日光門主、無賃人馬、51人45足なるも 400人60足
- ・天明5（1787）越ヶ谷宿年間公用人馬数
人足39262人 馬22185疋

六斉市と商店

- ・六斉市（2.7の市）は古くから行われていたが、寛永年中（1624～1643）頃 幕府より認可
- ・市神社、寛永年中、四丁野村神明社が移される。
- ・江戸中期、農業技術の進歩により、農村の余剰産物の交易が盛んになる。
- ・市で取引きされる作物、玄米、玄餅、搗麦、から麦、小麦、大豆、小豆、そら豆、ひえ、もろこし、えんどう、そば、ごま、菜種、水油、藍など。
- ・米相場（1両につき）

天保7（1836）	7月22日	3斗4升
	10月 2日	2斗2升5合
※天保4年には1両につき8斗7～8升のところ飢饉により米相場高騰する		

天保8 (1837)	3月 2日	2斗3升5合
	3月17日	1斗9升
	5月27日	2斗3升
	8月 2日	4斗5升
	10月17日	5斗

・貨幣経済の発達と共に各種商店が建ち、物品の流通が盛んになる。

呉服商	ぬしや市右衛門	古着屋	三鷹屋嘉兵衛
呉服商	ならや又兵衛	金物商	木下半助
旅籠屋	河内屋	呉服商	伊勢屋
油屋	長右衛門	塩屋	吉兵衛

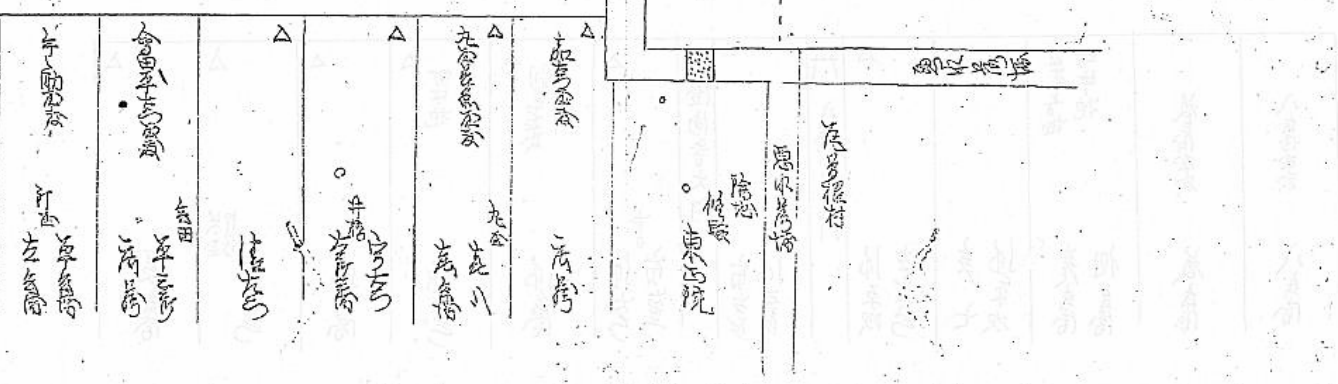
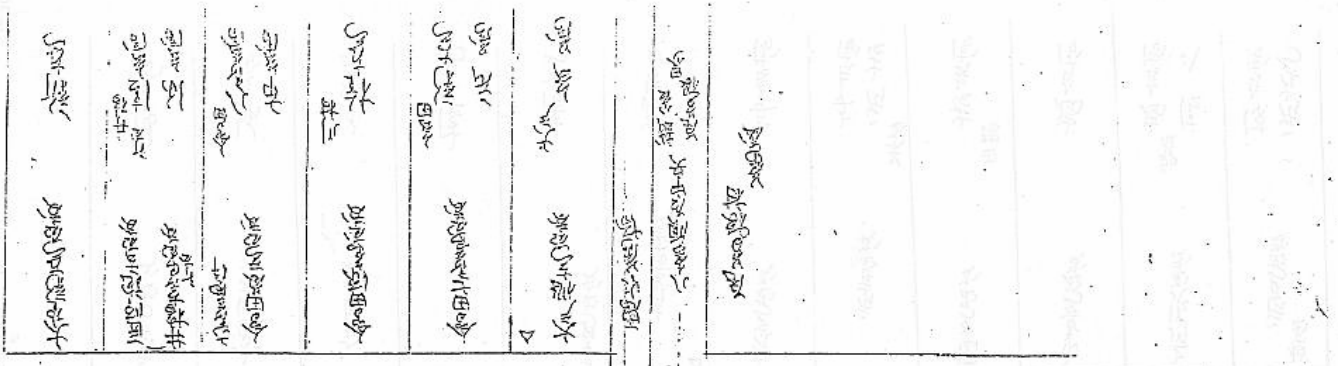
紀行文に見る越ヶ谷宿

・結城紀行	元禄16 (1703)	水野長福
・東遊雑記	天明 8 (1788)	古河古松軒
・日光参詣旅行記	文化 5 (1808)	志賀理助外6名
・甲子夜話	文化11 (1814)	松浦静山
・十方庵遊歴雑記	文化文政?	釈 大浄
・日光巡拝図誌	嘉永 2 (1849)	今井 中
・上野下野の記	明治 9 (1876)	三遊亭円朝

参考文献

日光街道繁昌記
ふるさと散歩道
越谷市史

わが町の歴史 越谷
越ヶ谷爪の蔓
草加市史



六十二
茶原菟野
物致野
店

是より待車御通り

小中川
物之天
四
木村
口
井
上
川
運送
店

待車御通り
飲食店
菓子製造業
茶屋
待合茶屋
休憩所
中川福太郎
金子芳次郎
石井久次郎
堀切治右衛門



日先遣申越し言上り月六日町書後分二回書申上り
六月二十日町書内職意公致上り町書言上り
仕り言東風別言言上り町書内職意公致上り町書言上り
百部余致懐仕言上り町書言上り町書言上り
恐ら言後言上り言上り

天明三年四月七日

本陣 檀香

善理

途中
高奉行所様

久松公言言上り言上り

日先遣申越し言上り月六日町書後分二回書申上り
六月二十日町書内職意公致上り町書言上り
仕り言東風別言言上り町書内職意公致上り町書言上り
百部余致懐仕言上り町書言上り町書言上り



高十六色三餘



「新回道中の人鑑」に見え凡曾根村
中庭五郎右門内庭
(日光道中分間延絵図 複製資料)

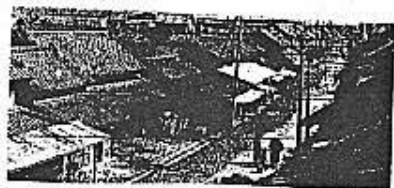


凡曾根附作 (大江初期)
(日光道中分間延絵図 複製資料)

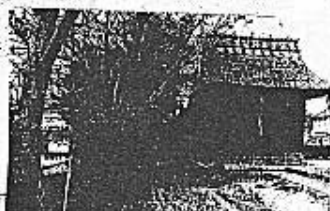
日光道中分間延絵図
(東京国立博物館蔵)
十八世紀、十九世紀、本村



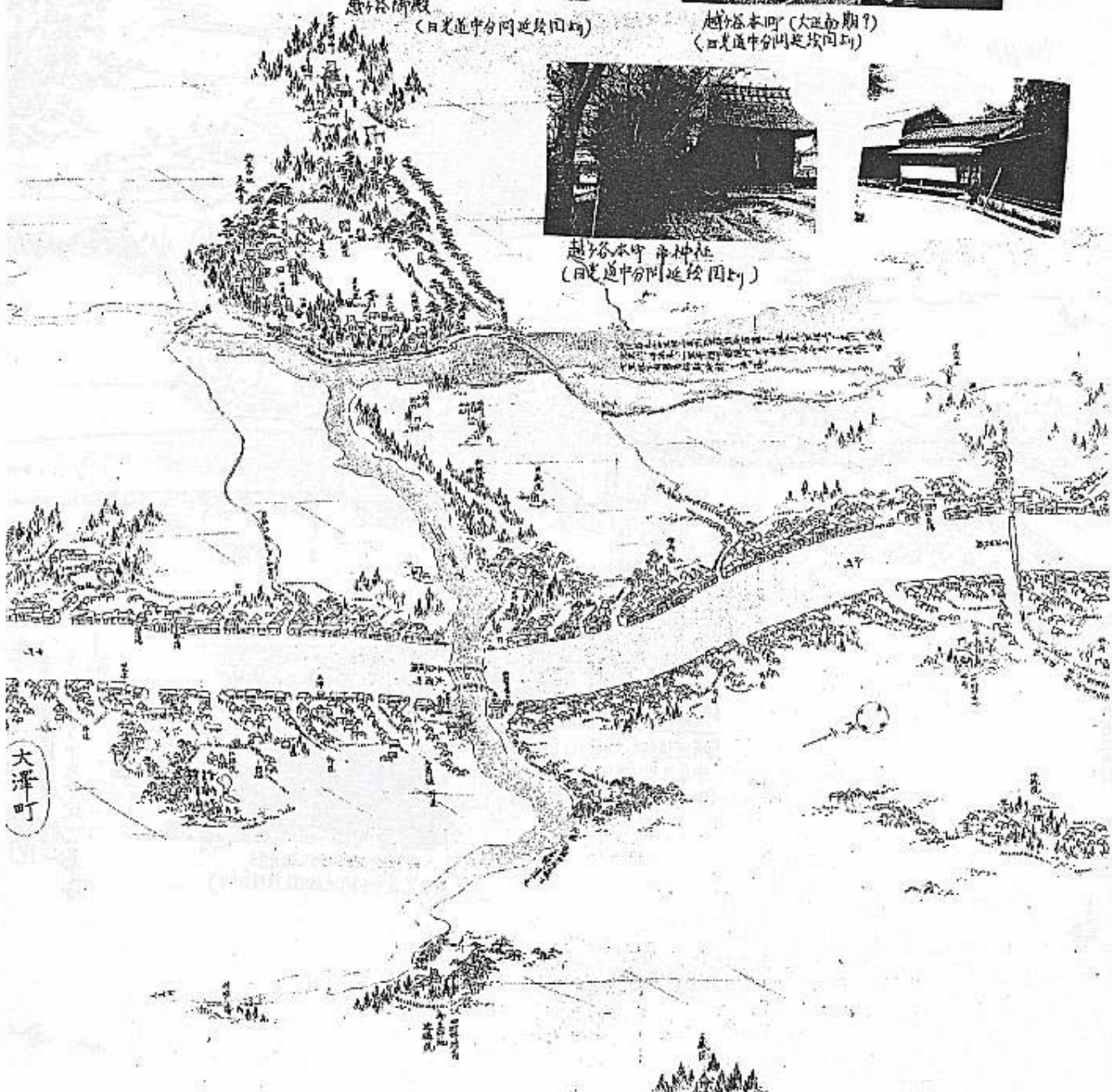
越谷橋
(日光道中分間延絵図同)



越谷本町(大正初期?)
(日光道中分間延絵図同)



越谷本町 神社
(日光道中分間延絵図同)



大澤町

